

(2020) 年度国立天文台研究集会開催報告書

2021 年 3 月 4 日

国立天文台長 殿

代表者	氏名	(ふりがな) いずみ たくま 泉 拓磨
	所属・職	ハワイ観測所・特任助教 (NAOJフェロー)
研究集会名	第7回銀河進化研究会 (GALAXY EVOLUTION WORKSHOP 2020)	
開催期間	2021年 2月 2日 ~ 2021年 2月 5日	
開催場所	Zoom開催	
参加人数・国数 (国数は所属機関の国数)	259名・10	
発表資料等の 情報	https://events.asiaa.sinica.edu.tw/workshop/20210202/index.php 研究集会のプログラムや発表資料等をまとめたHPがあればURLを記載してください。 提出後に作成された場合もご連絡ください。国立天文台研究交流委員会HPにリンクを張らせていただきます。HPではなく、論文や冊子を作成している場合は、可能であれば一部ご提供ください。(論文の場合はDOIの情報でも可)	
研究集会の概要	<p>銀河進化研究会は毎年継続して行われている研究会で、今回が第7回である。本研究会は銀河研究の幅広い分野をカバーする研究会で、(1) 各々の分野での最新研究を各自が思う存分に発表し、(2) それを踏まえて新たな研究の促進や今後を見据えた中・長期的な戦略を俯瞰的に議論することを目的としている。さらに台湾・韓国の研究者との共同開催とすることで(3) 国内外の研究者との交流、新たな共同研究の創出も今回からの目的となっている。特に(2)は継続的な研究会ならではの項目で、これまでに様々な衛星ミッションや将来観測計画の議論を重ねてきた実績がある。研究発表のテーマは制限せず、銀河を多角的に捉えるために幅広い分野から様々な講演を毎回受け付けているのも本研究会の特色だろう。</p> <p>当初、本研究会は台湾のASIAAで開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、議論を重ねた結果、残念ながらzoomを用いたオンライン開催へと移行した。そこで、議論の場としてSlackを用いたが、これが功を奏し、研究会後にも議論されるなど、非常に活発な議論が飛び交った。前回に引き続き英語を公用語とし、さらに今回から日・台・韓の3カ国共同開催となったことで、学生や若いポストクの国際発表経験の場となり、海外の研究者や留学生の参加が著しく増加したのも特筆に値する。</p> <p>さて、今回のフォーカスセッションのテーマは近年LIGOやEHTの観測などで更に注目されているブラックホールと共進化であった。これは日・台・韓どの国でも精力的に研究が行われている分野でもある。基調講演者には3カ国から理論・観測両側面をレビューして頂き、今後の展望や若手のとりうる関わり方などを議論した。</p>	

研究集会の成果

2021年2月2日から5日にかけて4日間の日程で、zoomにおいて第7回銀河進化研究会(GALAXY EVOLUTION WORKSHOP 2020)を開催した。日本・台湾・韓国の3カ国共同開催とし、この3カ国だけでなくアメリカ・中国・オーストラリア、インドなど世界10カ国から約260名の参加があり、62件の口頭発表、15件のポスター発表があった。ここから分かるように、本研究会は大規模国際研究会と遜色ない研究会へと昇華した。また世話人の予想を大幅に上回る数多くの口頭発表があり、参加者の意識の高さが伺えた。発表者の多くは各国の学生および若手ポスドクであり、さらに最新の研究を発表して頂いたこともあって、若手研究者の研究動向と研究内容を包括的に知ることができ、非常に有意義であったことも特筆に値する。若手研究者間で互いに切磋琢磨しあう良好な関係が築けたことを期待する。

一般講演も、銀河系/近傍銀河から遠方銀河、理論から観測に至るまで、非常に幅広い話題にわたり行われた。今回は新型コロナ感染拡大の影響でzoomによるオンライン開催となったことを逆手に取り、zoom上での質疑応答の時間はあまり長く設けず、その時間をより多くの口頭発表に割いた。その一方でSlackを用意し、しかも各講演ごとにチャンネルを設定することで、誰でも好きな時に講演者に質問・議論できる環境を提供した。これが非常に良く機能し、質問時間では収まらないであろう深い質問や議論ができたり、研究会終了後も議論が続くなど、世話人冥利につける結果を生んだ。zoomのチャット上に各講演者のSlackチャンネルのリンクを貼るという工夫も上手く機能したように感じている。

前回から英語が公用語となり、今回から日本・台湾・韓国の3カ国共同開催となったことで、完全な英語化に成功した。(特に修士の)学生にとってはハードルが高いかと思うが、同世代の多いこともあり、良い国際発表経験の場となったように思う。海外の研究者や留学生の参加が圧倒的に増え、先に述べたようにオンライン上では活発な議論が巻き起こっていて、全体として3カ国共同開催は確実に成功であった。今後も3カ国共同開催は継続し、機をみつつ開催国の拡大も視野に入れていきたい。

フォーカスセッションでは、「ブラックホールと共進化」について日本・台湾・韓国から2名ずつ、計6名に基調講演をお願いした。理論・観測、近傍・遠方と多角的にこの研究分野の現状や将来計画のお話を聞くことができたのは非常に有意義であった。また、これに関連する一般講演も多数あり、この分野の活発さが伺えた。

本研究会は来年度以降も継続予定である。今後の方針に関して、研究会後に参加者にアンケートをとり、改善点やフォーカスセッションとして取り上げてほしいテーマ、要望等を伺った。ZoomやSlackの使い方がわかりにくかったとのコメントもあるので、次回もオンライン開催となった場合の重要な改善点だろう。テーマについてもいくつか候補が出ており、次回の参考にしたいと思う。また今回から3カ国共同開催としたが、90%の回答が今回の研究会に満足しているという結果になった。共同開催は今後も継続して行ない、本研究会のセールスポイントに昇華させたいと考えている。

第7回から世話人のメンバーが大幅に刷新され、新体制での初めての研究会となったが、大盛況のうちに終わることができた。これはひとえに、若手を含むコミュニティからの本研究会への期待の顕れだと考えている。このモチベーションを胸に、今後も本研究会を発展させていきたい所存である。

<p>その他参考 となる事項 (希望事項も 含む)</p>	<p>今回から本研究会は日本国内から東アジア地域に拡大し、台湾・韓国との共同開催とした。今後もこれを継続または拡大をしていくつもりである。COVID-19の状況次第だが、オフラインでの交流の重要性は言わずもがなのので、可能であれば現地開催に開催形式を戻したい。その際には学生/若手PD向けの旅費補助財源の確保が課題であり、天文台研究集会のご支援なくしてこの研究会を維持することは極めて困難である。一方で来年度以降も、今年度のようにオンライン開催が余儀なくされる可能性も充分にある。このように、研究会開催にかかる状況が非常に流動的である点もご理解・ご協力頂き、今後もかわらぬご支援・ご協力を賜りたい。</p>
---	---